

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
AI・データサイエンスの基礎	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 「AI・データサイエンスの基礎」(2回目) テーマ:日本企業の国際競争力低下 市場の大きな変化 デジタル技術の発展 デジタル社会の提言 視点:①ビッグデータ、IoT、AI、ロボット ②データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化 ③第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 ④複数技術を組み合わせたAIサービス ⑤人間の知的活動とAIの関係性 ⑥データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方
	1-6 「AI・データサイエンスの基礎」(8回目) テーマ:データ・AIを活用した新しいビジネス データAIに関連した新技術 新ビジネスがなぜ小さな企業から生まれやすいのか 視点:①AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど) ②AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 「AI・データサイエンスの基礎」(3回目) テーマ:統計データ・人の行動ログデータ 機械の稼働ログデータ データの分類 オープンデータ 視点:①調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど ②1次データ、2次データ、データのメタ化 ③構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など) ④データ作成(ビッグデータとアノテーション) ⑤データのオープン化(オープンデータ)
	1-3 「AI・データサイエンスの基礎」(4回目) テーマ:AIの定義 AIの歴史 業種別のAI活用領域 人間に近づくAI 視点:①データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など) ②研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど ③仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 「AI・データサイエンスの基礎」(5回目) テーマ:データ・AI利活用技術の枠組み データ認識技術 AI技術 AIの課題 AIの難問・AIが社会にもたらす影響 視点:①データ解析:予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など ②データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など ③非構造化データ処理:言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など ④特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ ⑤認識技術、ルールベース、自動化技術
	1-5 「AI・データサイエンスの基礎」(6・7回目) テーマ:データの定義 データ活用のモデル データ分析のアプローチ データ分析においてより大きな価値を生む領域 製造業・小売業・サービス業・公共インフラ業のデータ・AI活用 データ・AI活用による新しいビジネス領域 視点:①データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案) ②流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度【リテラシーレベル】

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<p>「AI・データサイエンスの基礎」(13・14回目)</p> <p>テーマ: 「ELSI」とは何か データに関する不正行為 個人情報の保護 個人情報は誰が管理すべきか バイアスとは データ収集におけるバイアス データ・AIを扱う上でのバイアス AIの正しい活用に向けて</p> <p>視点: ①ELSI (Ethical, Legal and Social Issues) ②個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト ③データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護 ④AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断) ⑤データバイアス、アルゴリズムバイアス ⑥AIサービスの責任論 ⑦データ・AI活用における負の事例紹介</p>
	3-2	<p>「AI・データサイエンスの基礎」(15回目)</p> <p>テーマ: 情報セキュリティ 従業員等による内部不正 コンピュータウイルスへの感染 サイバー攻撃 情報セキュリティ脅威事例 セキュリティ技術</p> <p>視点: ①情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性 ②匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取 ③情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介</p>
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<p>「AI・データサイエンスの基礎」(9・10回目)</p> <p>テーマ: データの種類 データの代表値(計算的代表値、位置的代表値) データのばらつき データのチェック 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解 演習(相乗平均、調和平均、データの代表値、データのばらつき、相関関係、アンスコム例)</p> <p>視点: ①データの種類(量的変数、質的変数) ②データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値) ③代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い) ④データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値) ⑤観測データに含まれる誤差の扱い ⑥打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ ⑦相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡) ⑧母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出) ⑨クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列 ⑩統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)</p>
	2-2	<p>「AI・データサイエンスの基礎」(11回目)</p> <p>テーマ: グラフをつくる データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ データの比較 適切なグラフ表現 優れたデータ可視化事例 演習(グラフ作成)</p> <p>視点: ①データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ) ②データの図表表現(チャート化) ③データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) ④不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素) ⑤優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)</p>
	2-3	<p>「AI・データサイエンスの基礎」(12回目)</p> <p>テーマ: 演習(売り上げを予測する、顧客層を分析する、顧客満足度を把握する、顧客不満の要因を探る)</p> <p>視点: ①データの集計(和、平均) ②データの並び替え、ランキング ③データ解析ツール(スプレッドシート) ④表形式のデータ(csv)</p>

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<p>1.AI・データサイエンスの必要性を説明できる。</p> <p>2.社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる。</p> <p>3.どのような思考方法で数理・データサイエンスを扱うか説明できる。</p> <p>4.データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる。</p> <p>5.代表的な数理・データサイエンスの技術とその利点・欠点を概説できる。</p>
--

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度									令和3年度									令和2年度									令和元年度									平成30年度									平成29年度									履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数																						
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性																							
英語科	134	100	200	43	0	43	36	0	36	0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			43	22%												
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!															
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																		
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																		
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																		
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																		
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																		
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																		
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																		
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																		
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																		
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																		
合計	134	100	200	43	0	43	36	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	22%																		

大学等名 大阪女学院短期大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 17 人 (非常勤) 56 人

② プログラムの授業を教えている教員数 1 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) 加藤映子 (役職名) 学長・カリキュラムセンター長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
カリキュラムセンター
 (責任者名) 加藤映子 (役職名) 学長・カリキュラムセンター長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称
大阪女学院大学内部質保証推進規程及び、大阪女学院大学内部質保証実施要領

⑥ 体制の目的
カリキュラムセンターは、大阪女学院大学内部質保証推進規程及び、大阪女学院大学内部質保証実施要領に基づき、教育課程の内部質保証を行う責任担当組織である。また、同センターは、教育課程を構成する授業実施を円滑に行うとともに、教育課程について自己点検・評価し、改善の取組を行うことを目的としている。本プログラムを構成する授業科目「AI・データサイエンスの基礎」が教育課程の共通教育科目群に配置されているため、同センターが本プログラム及び構成する授業科目の自己点検・評価と改善の取組を担う。

⑦ 具体的な構成員
カリキュラムセンターは、学長が指名する以下の教員:21名 職員:11名によって構成される。【R4(2022)年度実績】
【教員:21名】
 大学国際・英語学部教授 加藤映子(大学・短期大学学長 カリキュラムセンター責任者)
 短大英語科教授 関根聡、短大英語科教授 R.D.Miller、短期大学英語科教授 仲川浩世
 短大英語科専任講師 I.M.Custance、短大英語科専任講師 金姫淑
 大学国際・英語学部教授 崔大龍、大学国際・英語学部教授 中西美和
 大学国際・英語学部教授 B.D.Teamam、大学国際・英語学部教授 松尾徹、大学国際・英語学部教授 樋川和子
 大学国際・英語学部教授 大塚朝美、大学国際・英語学部教授 T.A.Swenson、大学国際・英語学部教授 山本淳子
 大学国際・英語学部教授 奥本京子、大学国際・英語学部教授 高橋宗瑠
 大学国際・英語学部准教授 箱根かおり、大学国際・英語学部准教授 朴賢淑
 大学国際・英語学部准教授 A.Wong、大学国際・英語学部専任講師 B.Matte、大学国際・英語学部専任講師 八杉裕美子
【職員:11名】
 大学短期大学事務局局長 浅田晋太郎、大学短期大学事務局次長 徐明寛、大学短期大学事務局研究・教育企画室 金美玲
 大学短期大学事務局ラーニングソリューションセンター 橋本誠一
 大学短期大学事務局教務・学生課 田中礼子、葛西崇文、若井恵美、中西和代、谷垣歩実、三吉玲子、初馬由美子

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	22%	令和5年度予定	72%	令和6年度予定	100%
令和7年度予定	100%	令和8年度予定	100%	収容定員(名)	200

具体的な計画

本プログラムを構築する授業科目「AI・データサイエンスの基礎」は令和4(2022)年度以降入学生の全学生必修科目であるため、令和5(2023)年度以降も履修者数・履修率は向上する。なお、令和4年度の実績算出にあたり、令和3(2021)年度以前入学生で本人の希望により本科目を令和4(2022)年度に履修した学生数は含んでいない。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

令和4(2022)年度以降に入学した全学生が受講できるように、本プログラムを構成する授業科目「AI・データサイエンスの基礎」は全学生必修科目としている。また、令和3(2021)年度以前に入学した学生でも希望する者は本プログラムを構成する授業科目「AI・データサイエンスの基礎」を受講することができる。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

全学生が受講できるように、本プログラムを構成する授業科目「AI・データサイエンスの基礎」は全学生必修科目としている。また、履修漏れを防ぐために、1年次には教務システムに該当科目が自動登録される仕組みとしている。くわえて他の全学生必修科目において学修へのフォローアップとしてアナウンスを行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

全学生が受講できるように、本プログラムを構成する授業科目「AI・データサイエンスの基礎」はe-learningサイト上で運用されており、いつでもどこからでも講義を視聴できる環境を構築している。
授業担当者は実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習のサポートを教室でも行っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

履修者は、e-learningサイトやEメールを利用して授業担当者に質問や問い合わせをすることができる。
また、対面での質問等を希望する場合は、事務局教務・学生課を利用することができる。くわえて、実データ・実課題を用いた演習に不安を抱える履修者は教室において授業担当者によるサポートを受けることができる。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	カリキュラムセンター 基盤教育展開部
カリキュラムセンター	

(責任者名) 加藤映子 (役職名) 学長・カリキュラムセンター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>大阪女学院短期大学では、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の目的を踏まえ、AI・データサイエンス教育は次世代を担う学生には不可欠であると考え、Wilmina AI Data Science Literacy Programの取組をはじめ、本プログラムを構成する唯一の授業科目「AI・データサイエンス基礎(以下、「本科目」という。)」を英語科の全学生必修科目として開講した。</p> <p>開講にあたっては、学習効果を向上させるため、学期末の課題提出や定期試験受験が集中する時期を避け、5月末から12月末にかけて学習スケジュールを設定し、学生に対して対面授業ではなく、e-learningサイト上で学習に取り組むことを説明した。</p> <p>履修者(令和4(2022)年度入学生者)43名のうち36名が本授業科目のすべての学習に取り組み単位を修得した。</p>
学修成果	<p>学修成果を高める取り組みとして、学生に全15回の授業の確認テストでの満点取得と、第9～12回の授業ではエクセルを利用したデータ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習(「データを読む」「データを説明する」「データを扱う」の操作処理とその成果物の提出)への取組みを求めた。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本科目においても全学的に実施している授業アンケートを行い、設問「この授業を受けて、身につけたと思うことを教えてください」を設け、以下の5つの内容(「1.データサイエンスの概念の理解」「2.データサイエンスの事例の理解」「3.データの扱い方」「4.データ分析手法」「5.データ・AIを扱う上での留意事項の理解」)についての理解度を確認した。</p> <p>結果、「1.データサイエンスの概念の理解」「2.データサイエンスの事例の理解」「4.データ分析手法」「5.データ・AIを扱う上での留意事項の理解」について、身についたと回答した学生の割合は20～30%程度であったが、「3.データの扱い方」について、身についたと回答した学生の割合は60%程度となった。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本科目を学ぶ学生が動機をより一層明確にできるよう、アンケートの設問「この授業を受けて良かった点」として学生が記述した回答を次年度履修者に案内する。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>入学者数に対する本科目の履修率は1年次全学生必修科目であるため、令和5(2023)年度に100%となる。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>令和4(2022)年度末で、本科目を修得した卒業生はいない。令和6(2024)年度以降の卒業生調査において、本科目を修得した卒業生の進路先や活躍状況の把握が可能である。</p> <p>本学の卒業生が就職した企業等を対象としてアンケート調査を実施している。このアンケートに設問を加える形で、本学卒業生に対する情報リテラシー及び数量的スキルの修得状況を調査し、本科目の改善に活用する。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本授業科目の学習開始時に、学生に身近なサービスや製品等の具体例を活用して説明した。また、第8回の授業では、授業科目担当者とは異なる本学教職員が、実社会の医療現場におけるAIの開発と活用事例である弘前大学医学部の取組「AIによる日本語の方言の標準語への翻訳」を紹介した。</p> <p>くわえて、1年次全学生必修科目「総合キャンパスプログラム演習」においてテクノロジーライターが「デジタル社会の問題を考える授業」を行うことにより、学生の数理・データサイエンス・AIを「学ぶことの意義(動機付け)」や「学ぶ楽しさ」の理解が深まるように努めている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>授業アンケートの結果及び意見を参考に、学生の「分かりやすさ」の視点から授業の内容と実施方法を継続的に改善することを検討する。</p>

AI・データサイエンスの基礎

科目の情報			
Course (授業科目名)	AI・データサイエンスの基礎		
English Name (英語名)	Basics of AI / Data Sciences		
担当者氏名	箱根 かおり		
Type of Class (授業形態)	講義, 演習	Credit (単位)	2 単位
Required (必修) or Elective (選択)	必修, 選択	Number of Classes (授業回数)	15 回
Eligibility Yr. (開講年次)	1年		

シラバスの情報	
Sub-title (サブタイトル)	
Language of Instruction (使用言語)	
日本語	
Related to Diploma Policy 《ディプロマポリシーとの関連》	
2-4 種々の情報媒体を利用して情報収集、分析、発表ができること A student shall be able to collect information, make analysis and presentations by the use of a great variety of tools. 2-5 将来の進路に関わる専門知識及び技能を獲得すること A student shall have acquired the specialized knowledge and skills required for the future career.	
Benchmark, Category or Prerequisites, etc. 《ベンチマーク、科目群、履修条件等》	
共通教育科目群 コア・エリア 情報リテラシー	
Objectives & Learning Goals 《授業の目的・到達目標》	
<ul style="list-style-type: none"> AI・データサイエンスの必要性を説明できる。 社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる どのような思考方法で数理・データサイエンスを扱うか説明できる。 データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる 代表的な数理・データサイエンスの技術とその利点・欠点を概説できる。 Explain the necessity of AI and data science. Can give examples of data and AI applications used in society. Explain how to handle mathematical and data science. Explain the points to keep in mind when dealing with data and AI. Outline representative mathematical and data science techniques and their advantages and disadvantages. 	
Contents 《授業の概要》	
政府の「AI戦略 2019」において、大学生等に対し文理を問わず初級レベルの数理・データサイエンス・AIの教育を課し、日常や仕事場で使いこなす基礎的な素養を習得することが求められている。このような背景に基づき、この授業では、「AI・データサイエンスに関して基礎的な理解を得る」ことを目標として実施する。この授業では、高度な数式や、情報技術に関する専門知識を可能な限り使わずに習得できる内容とする。また、実際に行われている「実社会におけるデータ・AI活用事例」を豊富に交えながら、実践的な理解を進める。 Under the government's AI Strategy 2019, university students and others are required to be educated in mathematics, data science, and AI at the elementary level, regardless of their liberal arts and sciences, and to acquire the basic knowledge to use them in daily life and in the workplace. Based on this background, the goal of this course is to provide students with a basic understanding of AI and data science. The content of this class will be designed to allow students to learn without using advanced mathematical formulas or specialized knowledge of information technology as much as possible. The course will also promote practical understanding by providing a wealth of real-world examples of data and AI applications in the real world.	
Instructor with Practical Work Experience 《実務経験のある教員による科目》	
Remarks 《備考》	
Method of Instruction 《授業の方法》	
オンデマンド形式のe-learning教材を用いて授業を進めます。 Classes will be taught using e-learning materials in on-demand format. e-learning教材の利用期限は、2023年1月11日23:59です。 The deadline for using e-learning materials is January 11, 2023 at 23:59.	
Students'Out-of-class Study 《準備学習》	
教材の視聴やクイズ以外に、事前・事後学習として各2時間の自習をお勧めします。事前学習は、前回の資料などを見て不明点などを調べてみましょう。事後学習は教材視聴などの学習から時間をあけずにその回の復習をしましょう。夏休み・冬休みなど、長期休暇を利用して全体的な予習・復習として学習しても結構です。	
Textbooks 《教科書》【1】	
Title (書名)	
Author (著者)	
Publish (出版社)	
ISBN	
Textbooks 《教科書》【2】	
Title (書名)	
Author (著者)	
Publish (出版社)	
ISBN	
Textbooks 《教科書》【3】	
Title (書名)	
Author (著者)	
Publish (出版社)	
ISBN	
TextBooks Remarks 《教科書備考》	
Reference Materials 《参考文献》【1】	
Title (書名)	
Author (著者)	
Publish (出版社)	
ISBN	
Reference Materials 《参考文献》【2】	
Title (書名)	
Author (著者)	
Publish (出版社)	
ISBN	
Reference Materials 《参考文献》【3】	
Title (書名)	
Author (著者)	
Publish (出版社)	
ISBN	
Reference Materials Remarks 《参考文献備考》	
Link 《関連リンク》	
https://wilmina-aids.com/#/login	
Method and Standards of Evaluation 《成績評価方法・基準》	
Term exam (学期末試験)	割合% 0 評価基準等
Term paper (学期末試験に代わる試験)	割合% 0 評価基準等
Course work (平常の学習成果)	割合% 100 評価基準等
Remarks (備考)	
15回すべての授業動画を視聴し、15回すべての確認テストで満点を取得して、第9～12回のエクセルファイルも提出すると合格 (Pass) となります。動画視聴、確認テスト、エクセルファイルの提出を2022年12月28日までにすべて済ませることを推奨します。	
Method of Feedback for Assignments 《課題等へのフィードバック方法》	
すべての提出物のフィードバックを、LMS (eラーニングサードス)によって行います。	
Message from Instructor 《授業担当者からのメッセージ》	
Office Hours or How to Contact Instructor 《オフィスアワー、授業外における学生・教員間のコミュニケーション方法》	
動画内容について質問がある場合は授業担当者宛 [hakone@wilmina.ac.jp] に連絡すること。第9～12回の動画視聴後のエクセル操作がわからない場合、10/5 (水) 10/19 (水) 11/2 (水) 11/16 (水) の5限開始時に408教室に来ること。授業担当者とスタッフが操作をサポートします。	

Contents of Each Class Session 《各回の授業内容》			
Session (回)	Contents (授業内容)	Homework (授業外の学習内容)	Est. time for homework (授業外の学習時間) min. (分)
1	データサイエンスとは	Students'Out-of-class Study 《準備学習》を参照のこと。	240
2	社会で起きている変化	Students'Out-of-class Study 《準備学習》を参照のこと。	240
3	社会で活用されているデータ	Students'Out-of-class Study 《準備学習》を参照のこと。	240
4	データ・AI利活用の活用領域	Students'Out-of-class Study 《準備学習》を参照のこと。	240
5	データ・AI利活用のための技術	Students'Out-of-class Study 《準備学習》を参照のこと。	240
6	データ活用とは	Students'Out-of-class Study 《準備学習》を参照のこと。	240
7	データ・AIの利活用の現場	Students'Out-of-class Study 《準備学習》を参照のこと。	240
8	データ・AI利活用の最新動向	Students'Out-of-class Study 《準備学習》を参照のこと。	240
9	データを読む (1)	Students'Out-of-class Study 《準備学習》を参照のこと。	240
10	データを読む (2)	Students'Out-of-class Study 《準備学習》を参照のこと。	240
11	データを説明する	Students'Out-of-class Study 《準備学習》を参照のこと。	240
12	データを扱う	Students'Out-of-class Study 《準備学習》を参照のこと。	240
13	データ・AIを扱う上での留意事項 (1)	Students'Out-of-class Study 《準備学習》を参照のこと。	240
14	データ・AIを扱う上での留意事項 (2)	Students'Out-of-class Study 《準備学習》を参照のこと。	240
15	データを守る上での留意事項	Students'Out-of-class Study 《準備学習》を参照のこと。	240

2022

学生要覧

College Catalogue

大阪女学院短期大学
英語科

4. 2022年度 授業科目一覧表

※開講学期は、年度によっては変わることがあります。履修登録にあたっては、毎年度初めに配布される「授業実施要綱」に掲載されている当該年度の授業科目一覧表を必ず参照してください。

授業科目名	授業形態	単位数		学習期間	基準年次	備考
		全員必修	レベル必須 選択必修 選択			
「共通英語科目群」(コア・エリアー英語基幹)						
Integrated Studies 1	演習	4		学期	1	
Integrated Studies 2	演習	4		学期	1	
Integrated Studies 3	演習	4		学期	1	
Integrated Studies 4	演習	4		学期	1	
Phonetics 1	演習	2		学期	1	
Phonetics 2	演習	2		学期	1	
Grammar 1	講義	2		学期	1	
Grammar 2	講義	2		学期	1	Fレベルは2年次履修
Essential Grammar	講義		1	学期	1	
Essential Communication	演習		1	学期	1	
Essential Writing	演習		1	学期	1	
Essential Reading	演習		1	学期	1	
「共通英語科目群」(コア・エリアー英語展開)						
Intensive Topic Studies A	講義		2	学期	2	
Intensive Topic Studies B	講義		2	学期	2	
Intensive Topic Studies C	講義		2	学期	2	
Intensive Topic Studies D	講義		2	学期	2	
Multidisciplinary Topic Studies 1	講義		2	学期	2	
Multidisciplinary Topic Studies 2	講義		2	学期	2	
Multidisciplinary Topic Studies 3	講義		2	学期	2	
Multidisciplinary Topic Studies 4	講義		2	学期	2	
Enhanced Topic Studies 1	講義		4	学期	2	
Enhanced Topic Studies 2	講義		4	学期	2	
Writing for Academic Purposes	演習	2		学期	1	Fレベルは2年次履修
World News ※	演習	2		学期	2	
「共通英語科目群」(コア・エリアー英語基礎・応用)						
Speed Reading	演習		2	学期	1	
Academic Reading	演習		2	学期	2	
Academic Listening	演習		2	学期	2	
Oral Interpretation	演習		2	学期	2	
Advanced Public Speaking	演習		2	学期	2	
Biblical Studies	講義		2	学期	2	
「共通英語科目群」(アカデミックエリア)						
Reading Strategies	演習		2	学期	1	
English Strategies 4-TOEFL	演習		2	学期	1	
Advanced Writing	演習		2	学期	2	
Advanced Grammar	講義		2	学期	2	
「共通英語科目群」(プロフェッショナルエリア)						
English Strategies 1-TOEIC	演習		2	学期	1	
English Strategies 2-TOEIC	演習		2	学期	1	
English Strategies 3-TOEIC	演習		2	学期	1	
Business Reading and Writing	演習		2	学期	1	
English for Business Communication	演習		2	学期	1	
児童英語教育特別演習	演習		2	学期	2	
観光英語演習	演習		2	学期	2	

2大

授業科目名	授業形態	単位数		学習期間	基準年次	備考
		全員必修	レベル必選択必選択			
「共通教育科目群」(コア・エリアー自己探求と文化)						
キリスト教学 1 (旧約聖書)	講義	1		学期	1	
キリスト教学 2 (新約聖書)	講義	1		学期	1	
自己の発見 I	講義	3		学期	1	
自己の発見 II	演習		1	学期	1	先修科目「自己の発見 I」
真navi 人生・社会	講義	2		学期	1	
総合キャンパスプログラム演習 I	演習	1		通年	1	
総合キャンパスプログラム演習 II	演習		1	通年	2	先修科目「総合キャンパス演習 I」
生と死の理解 (いのちの教育)	講義		2	学期	2	
地球市民論	講義		2	学期	2	
現代思想の入門	講義		2	学期	2	
異文化間コミュニケーション	講義		2	学期	2	
家族とライフデザイン	講義		2	学期	2	
地域研究沖縄 I	講義		1	学期	1	
文学との出会い	講義		2	学期	1	
身体活動 1	実習	0.5		学期	1	
身体活動 2	実習	0.5		学期	2	
身体への気づき 女性のからだ	講義		1	学期	2	
身体への気づき 保健体育	講義		1	学期	1	
文章表現法 I	講義		2	学期	1	
音楽と表現	演習		1	学期	1	
近現代の世界と日本	講義		2	学期	2	
「共通教育科目群」(コア・エリアー現代の課題)						
国際理解入門	講義		2	学期	2	
世界の人権問題 (人権の理解)	講義		2	学期	2	
差別と相互理解	講義		2	学期	2	
ジェンダーからみた現代社会	講義		2	学期	2	
日本国憲法	講義		2	学期	2	
人権教育講座	講義		1	集中	1	
平和紛争学入門	講義		2	学期	2	
ナショナリズムと国際社会	講義		2	学期	2	
くらしの中の科学	講義		2	学期	2	
「共通教育科目群」(コア・エリアー情報)						
デジタルネットワーク基礎	演習	1		学期	1	
基礎ゼミ	講義	2		学期	1	
AI・データサイエンスの基礎	講義	2		学期	1	
遠隔学習のためのパソコン活用	講義		2	学期	1	
「共通教育科目群」(コア・エリアー世界の言語)						
Spanish I-1	演習		1	学期	1	
Spanish I-2	演習		1	学期	1	
French I-1	演習		1	学期	1	
French I-2	演習		1	学期	1	
German I-1	演習		1	学期	1	
German I-2	演習		1	学期	1	
Chinese I-1	演習		1	学期	1	
Chinese I-2	演習		1	学期	1	
Korean I-1	演習		1	学期	1	
Korean I-2	演習		1	学期	1	
韓国語特別演習 I-1	演習		2	学期	1	
韓国語特別演習 I-2	演習		2	学期	1	
日本語実践演習 I-1	演習		1	学期	1	日本語母語でない学生は必修
日本語実践演習 I-2	演習		1	学期	1	日本語母語でない学生は必修

2大

授業科目名	授業形態	単位数		学習期間	基準年次	備考
		全員必修	レベル必須 選択必修			
「共通教育科目群」 (コア・エリアー世界の言語)						
Spanish II-1	演習		1	学期	2	先修科目「Spanish I」
Spanish II-2	演習		1	学期	2	先修科目「Spanish I」
French II-1	演習		1	学期	2	先修科目「French I」
French II-2	演習		1	学期	2	先修科目「French I」
German II-1	演習		1	学期	2	先修科目「German I」
German II-2	演習		1	学期	2	先修科目「German I」
Chinese II-1	演習		1	学期	2	先修科目「Chinese I」
Chinese II-2	演習		1	学期	2	先修科目「Chinese I」
Korean II-1	演習		1	学期	2	先修科目「Korean I」
Korean II-2	演習		1	学期	2	先修科目「Korean I」
韓国語特別演習 II-1	演習		3	学期	2	先修科目「韓国語特別演習 I」
韓国語特別演習 II-2	演習		3	学期	2	先修科目「韓国語特別演習 I」
日本語・日本事情	演習		1	学期	2	日本語母語でない学生対象 卒業要件外科目
韓国語特別演習 III-1	演習		3	学期	2	先修科目「韓国語特別演習 II」
韓国語特別演習 III-2	演習		3	学期	2	先修科目「韓国語特別演習 II」
韓国語口語表現演習	演習		1	学期	1	
韓国語実践演習1 (TOPIK2級)	演習		1	集中	2	
韓国語実践演習2 (TOPIK3級)	演習		1	集中	2	
韓国語で学ぶコリアの文化	講義		2	学期	2	
韓国語で学ぶコリアの歴史	講義		2	学期	2	
「共通教育科目群」 (アカデミック・エリア)						
経済学 1	講義		2	学期	1	
経済学 2	講義		2	学期	2	
社会学 1	講義		2	学期	1	
社会学 2	講義		2	学期	2	
法学 1	講義		2	学期	1	
法学 2	講義		2	学期	2	
心理学 1	講義		2	学期	1	
心理学 2	講義		2	学期	2	
英語学	講義		2	学期	2	
英語文学1	講義		2	学期	2	
英語文学2	講義		2	学期	2	
子どもとことば	講義		2	学期	2	
言語と文化	講義		2	学期	2	
心理言語学	講義		2	学期	2	
論文の書き方	講義		2	学期	2	
国際関係学	講義		2	学期	2	
政治学	講義		2	学期	2	
「共通教育科目群」 (プロフェッショナル・エリア)						
キャリア・スタディ	講義		2	学期	1	
会計学	講義		2	学期	1	
経営入門	講義		2	学期	2	
マーケティング基礎	講義		2	学期	2	
キャリア基礎演習 1	演習		2	学期	1	卒業要件外科目
キャリア基礎演習 2	演習		2	学期	1	卒業要件外科目
キャリア基礎演習 3	演習		2	学期	2	卒業要件外科目
マナー・プロトコール基礎	講義		2	学期	1	卒業要件外科目
観光学概論	講義		2	学期	2	
エアラインビジネス	演習		2	学期	1	

2大

授業科目名	授業形態	単位数		学習期間	基準年次	備考
		全員必修	レベル必修 選択必修			
「海外等体験科目群」						
English Cultural Exchange	演習		2	集中	2	
海外 Cabin Attendant (CA) 実習	演習		2	集中	2	
異文化間リサーチ演習	講義		4	学期	1	
エリア・スタディーズ (国内外)	演習		2	集中	1	
地域研究沖縄Ⅱ	演習		1	集中	1	先修科目「地域研究沖縄Ⅰ」
Seoul Short Program (SSP)	演習		2	集中	1	
Global Studies	演習		1	集中	1	
Leadership Explorations	演習		2	集中	2	
授業科目名	授業形態	単位数		学習期間	履修年次	備考
「教科の指導法及び教育の基礎的理解に関する科目等」						
英語科教育法	講義	2		学期	2	
教育基礎論	講義	2		学期	1	卒業要件外科目
教職入門	講義	2		学期	2	卒業要件外科目
教育経営論	講義	2		学期	2	卒業要件外科目
発達心理学	講義	1		学期	1	
特別支援教育の基礎	講義	1		学期	2	卒業要件外科目
教育課程総論	講義	1		学期	2	卒業要件外科目
道徳教育の理論と実践	講義	1		学期	1	卒業要件外科目
総合的な学習の時間の指導法	講義	1		学期	2	卒業要件外科目
特別活動論	講義	1		学期	1	卒業要件外科目
教育方法・技術論	講義	1		学期	2	卒業要件外科目
ICT活用の理論と実践	講義	1		学期	2	卒業要件外科目
生徒指導論	講義	2		学期	2	卒業要件外科目
教育相談の基礎	講義	2		学期	2	卒業要件外科目
進路指導論	講義	2		学期	2	卒業要件外科目
事前事後指導	講義	1		学期	2	卒業要件外科目
教育実習	実習	4		集中	2	
教職実践演習(中)	演習	2		学期	2	卒業要件外科目

大阪女学院大学内部質保証推進規程

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪女学院大学（大阪女学院短期大学を含む。以下「本学」という。）の内部質保証の推進に関し必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規程において「内部質保証」とは、本学がその使命や目的を実現するため、自らが行う教育、研究及び社会貢献並びにそれを支える組織・運営及び施設・設備の状況について点検・評価し、質の保証を行うとともに、絶えず改善・向上のための取組に努め、大学に求められる社会的期待並びに本学が定める理念・目的及び目標を通じて、それらの取組が一定水準にあることを自らの責任で社会に示していくための恒常的・継続的活動をいう。

(組織)

第3条 第1条に規定する目的を達成するため、本学に内部質保証推進自己点検・評価委員会(以下「推進委員会」という)を置き、大学運営会議をもってこれに充てる。

(推進委員会の構成)

第4条 推進委員会は、次に掲げる委員で組織する。

- (1) 学長
- (2) 学長が指名する理事
- (3) 副学長
- (4) 研究科長
- (5) 学長補佐（評価企画）
- (6) 短期大学教育推進室長
- (7) 短期大学 ALO
- (8) 教務部長
- (9) 学生サポート部長
- (10) カリキュラムセンター長
- (11) 国際交流センター長
- (12) 事務局長
- (13) キャリアサポートセンター長
- (14) アドミッションセンター長
- (15) 学長が指名する教授2名
- (16) 学長が指名する管理職職員2名

2 委員長は、学長をもってこれに充てる。

3 推進委員会は、学長が招集し、その議長となる。

(推進委員会の審議事項)

第5条 推進委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 内部質保証に関すること
- (2) 自己点検・評価の基本方針に関すること
- (3) 自己点検・評価結果の点検及び調整に関すること
- (4) 自己点検・評価結果に基づく検証及び改善・向上に関すること
- (5) その他自己点検・評価に係る重要事項に関すること

(自己点検・評価の実施)

第6条 自己点検・評価の実施は、「大阪女学院大学内部質保証実施要領」の定めるところにより、責任担当組織が行う。自己点検・評価の実施に係り、各責任担当組織への根拠資料の提供等の支援については、学内の協力支援組織が、これを担当する。

(自己点検・評価の実施組織)

第7条 前項の「責任担当組織」とは、カリキュラムセンター、学生サポート室、アドミッションセンター、キャリアサポートセンター、国際交流センター、研究活動委員会、地域連携委員会、情報教育推進委員会、IR委員会、大学院研究科をいう。

また、「協力支援組織」とは、図書館、教員養成センター、日本語教育センター、ラーニングソリューションセンター(LSC)及び教務委員会、学習サポート委員会等の本学の各運営委員会並びに事務局等をいう。

(改善指示)

第8条 推進委員会は、自己点検・評価シートによる報告を受け、改善が必要であると判断した場合は、期限を定めて、改善の指示を関係する責任担当組織等に対して行うものとする。

(改善活動及びその報告)

第9条 改善の指示を受けた責任担当組織等は、当該事項について改善を行い、その結果を推進委員会に報告しなければならない。

2 推進委員会は、改善に関する報告を受けたときは、改善結果とともに、学長の指示に基づいた改善活動が行われたかについて検証し、当該年度の自己点検・評価及び改善結果について大阪女学院理事会に報告を行うものとする。

3 責任担当組織等は、自己点検・評価の結果に基づき、改善する事項について計画的かつ継続的に取り組み、教育研究の質の向上に努めなければならない。

(情報の公表)

第10条 学長は、内部質保証に係る情報を積極的に学外に公表し、教育研究活動等及びその改善・改革状況の透明性を担保するものとする。

(事務)

第 1 1 条 内部質保証に関する事務は、評価企画（IR）室が行う。

（改廃）

第 1 2 条 この規程の改廃は、学院運営会議の議を経て、理事会が行う。

附 則

1 この規程は、2023年2月28日より施行する。

大阪女学院大学内部質保証実施要領

(目的)

第1条 この要領は、大阪女学院大学内部質保証推進規程に基づき、大阪女学院大学（同短期大学を含む。以下「本学」という。）の内部質保証の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(内部質保証の対象とする活動)

第2条 内部質保証の対象とする活動は、本学の活動のうち、教育課程に関すること及び施設・設備に関すること、学生支援に関すること、学生の受入に関すること、研究に関すること、国際化に関すること、地域連携に関すること、情報化に関すること並びに内部質保証の実施支援に関することとする。

2 内部質保証の対象とする活動と、その活動の責任担当組織との関係は、次表のとおりとする。

対象とする活動	責任担当組織
教育課程に関すること	カリキュラムセンター
施設・設備に関すること	学生サポート室
学生支援に関すること	学生サポート室
学生の受け入れに関すること	アドミッションセンター
学生の就職等進路支援に関すること	キャリアサポートセンター
研究に関すること	研究活動委員会
国際化に関すること	国際交流センター
地域連携に関すること	地域連携委員会
情報化に関すること	情報教育推進委員会
大学院研究科に関すること	大学院研究科
内部質保証の実施支援に関すること	IR委員会

(モニタリング及びレビュー)

第3条 責任担当組織は、内部質保証の対象とする活動について、1年に1回行う点検・評価（以下「モニタリング」という。）及び5年から7年に1回行う総合的な点検・評価（以下「レビュー」という。）を実施する。

2 モニタリングについては、原則として別紙様式1で定める自己点検・評価シート（以下、「自己点検・評価シート」という。）の「Iチェックリスト」（以下「チェックリスト」という。）中の「モニタリング及びレビューの観点」（以下「観点」という。）のうちモニタリングの欄に○がある項目について責任担当組

組織が点検・評価を行う。レビューについては、原則として観点で示した全ての項目について責任担当組織が点検・評価を行う。

- 3 チェックリスト中の観点において、関係する協力支援組織は、根拠資料の提供、関係者への意見聴取、責任担当組織の意見集約への支援、関連する会議の運営支援等により、モニタリング及びレビューを支援する。
- 4 責任担当組織の目的に照らして実施が困難であると内部質保証推進自己点検・評価委員会（以下「推進委員会」という。）が認めた観点については、当該責任担当組織はモニタリング及びレビューを実施しないことができる。
- 5 推進委員会及び責任担当組織は、必要に応じて、責任担当組織が行うモニタリング及びレビューについて、チェックリスト中の観点で示した以外の項目を追加することができる。
- 6 レビューの実施時期は、推進委員会が定める。

（実施手順）

第4条 責任担当組織は、学長の指示の下、第2条に定める内部質保証の対象とする活動について、チェックリストに基づいてモニタリング及びレビューを行う。モニタリング及びレビューの結果、改善を要する事項があると認めた場合は、改善及び向上のための取組を計画し実施した上で、自己点検・評価シートの「II 改善を要する事項」に改善計画及び進捗状況を記載する。

- 2 前項に定める手順において、対応が困難であり、全学での検討が必要な課題があると判断した事項については、自己点検・評価シートの「III 全学での検討が必要な課題」に記載する。
- 3 第1項に定める手順において、副学長は必要に応じて、自己点検・評価シートの「IV 優れた成果が確認できる取組」に具体的内容を記載する
- 4 前3項の手順により作成された自己点検・評価シートを、副学長は学長に提出する。学長は、受け取った自己点検・評価シートに基づき、学部として総括したモニタリング及びレビューを行う。モニタリング及びレビューの結果、改善を要する事項があると認めた場合は、改善及び向上のための取組を計画し実施した上で、「II 改善を要する事項」に改善計画及び進捗状況を記載する。
- 5 前4項において、対応が困難であり、全学での検討が必要な課題があると判断した事項については、「III 全学での検討が必要な課題」に記載する。
- 6 学長は必要に応じて「IV 優れた成果が確認できる取組」に具体的内容を記載する。
- 7 学長は、第4項から第6項の手順に基づき作成した自己点検・評価シートを推進委員会へ提出する。
- 8 21世紀国際共生研究科、各センター及び附属図書館（以下「研究科等」という。）の長は、第2条に定める内部質保証の対象とする活動について、チェックリストに基づいてモニタリング及びレビューを行う。モニタリング及びレビューの

結果、改善を要する事項があると認めた場合は、改善及び向上のための取組を計画し実施した上で、「II 改善を要する事項」に改善計画及び進捗状況を記載する。

9 研究科等での対応が困難であり、全学での検討が必要な課題があると判断した事項については、「III 全学での検討が必要な課題」に記載する。

10 研究科等の長は必要に応じて「IV 優れた成果が確認できる取組」に具体的な内容を記載する。

11 研究科等の長は、第8項から第10項の手順に基づいて作成した自己点検・評価シートを推進委員会へ提出する。

12 前各項の手順について、責任担当組織は、別紙様式2に定める自己点検評価項目及び判断基準によりモニタリング及びレビューを実施する。

第5条 推進委員会は、第4条各項の手順により提出された自己点検・評価シートに基づいて、本学の活動全体についてのモニタリング及びレビューを行う。

2 推進委員会は、モニタリング及びレビューの結果、本学の活動に改善を要する事項及び全学的な検討が必要な課題があると認めた場合は、改善及び向上のための取組を計画し、責任担当組織に対して改善及び向上のために必要な指示を出す。

3 改善及び向上のために必要な指示を受けた責任担当組織は、進捗状況を推進委員会に報告する。

4 推進委員会は前項の報告があった場合は、進捗状況を確認するとともに、進捗状況に応じた対処方法を決定する。

(教職課程)

第6条 教職課程の内部質保証については、別に定める。

(改廃)

第7条 この要領の改廃は、学院運営会議の議を経て、理事会が行う。

附 則

1 この規程は、2023年2月28日より施行する。

別紙様式1 自己点検・評価シート

「I チェックリストの例」

分析項目	モニタリング	モニタリング及びレビューの観点 (分析項目内容)	判断の 根拠資料	点検・評価結果
6-1-1	○	学位授与方針が大学及び学部、学科、研究科の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定されているか。	ディプロマポリシー	○適切である ◇改善を要する事項がある
6-2-1	○	教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が分かりやすいように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示しているか。	カリキュラムポリシー	○適切である ◇改善を要する事項がある
6-2-2	○	教育課程方針が学位授与方針と整合性を有しているか。	ディプロマポリシー カリキュラムポリシー	○適切である ◇改善を要する事項がある

Wilmina AI Data Science Literacy Program 取組概要

○目標

→プログラムを構成する授業科目の学修をとおして、数理・データサイエンス・AIの基礎的な素養を身につける。

○構成授業科目

→ AI・データサイエンスの基礎

AI・データサイエンスに関して基礎的な理解を得ることを目的として、以下の到達目標を設定し展開する科目である。

- ①AI・データサイエンスの必要性を説明できる。
- ②社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる
- ③どのような思考方法で数理・データサイエンスを扱うか説明できる。
- ④データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる
- ⑤代表的な数理・データサイエンスの技術とその利点・欠点を概説できる。

●全学生必修科目

→共通教育科目における全学生必修科目として学修機会の提供
全学生必携のタブレット端末による学修機会の確保

●e-learningサイトを利用した教育

→学習時間・場所を問わない学修機会の確保
PDF形式の授業資料の提供
授業科目担当者へのオンライン及び大学内での質問機会の確保

●プログラム改善

→授業アンケートによる学生の意見集約
カリキュラムセンターによる自己点検

→ 数理・データサイエンス・AIの基礎的な素養をもった学生の育成

Wilmina AI Data Science Literacy Program

自己点検と改善を行う組織・体制・手順

